
コクイ

尻切レ蜻蛉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コクイ

【Nコード】

N5433BA

【作者名】

尻切レ蜻蛉

【あらすじ】

そんな所が、嫌いなんだ。

「あーさいてー」

ポタポタと落ちる血に、うんざりしたように呟いて背中を壁に預けた。

しくじりなんていつ以来だろう。

任務途中にほかに気を取られるなんて、ありえない。

「まだ、心があるんだな」

自嘲気味に零した言葉。

独り言だ。

これだけ手を汚してきて、今さら暖かいものを抱きしめられるとは思わない。

それでも、欲しいものはあるんだ。

「あーあ。馬鹿だねえ」

不意に角から現れたのは黒衣。

気配も見せない神出鬼没。

見知った、大嫌いなヤツ。

「なんでいるんだよ」

「オマエのアホ面おがみにきたのさ」

本当、超がつくほど、馬鹿だよ。くつくつと笑う黒衣は、そう云って

「だーッ 触んなー!!」

左手を摘み上げる。

「どうせ直ぐ良くな」

黒衣が傷口に口をつけた途端に血が止まった。
それが黒衣の力。そして、

「カシを勝手につくってんじゃねえ!!」

「ま、三倍で返せよ」

「!?!? ふざけんな!」

けらけら笑う黒衣。

けれど、知っているんだ。

こうして怪我を治すたびに、黒衣を苛む強い痛みを。

誰かの分もそんな風に傷ついて、それなのに、誰にも錘を背負わせ
ない。

零れ落ちてる砂時計を、自分だけにしか悟らせない。

そんな所が、嫌いなんだ。

そして、それを知らずにアイツの口車にのっていたことが。

「心があるんだよ!」

「知ってる。オマエは甘ちゃんだからな」

そう云ってひらひらと手を振ったきり、黒衣は振り返らずに。
それから二度と姿を見せることはなかった。

「あーさいてー」

眩いても、もうアイツが現れることは二度とない。

(後書き)

【三題噺】心、血、砂

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5433ba/>

コクイ

2012年1月14日23時53分発行